



ボーイスカウトの活動紹介

ボーイスカウト東京連盟 千代田第6団 団委員長 井沢 啓一様

本日お招きいただきましてありがとうございます。ボーイスカウト千代田第6団の団委員長をしております。そのほか東京連盟とか日本連盟とかお役目いただいていて忙しくさせていただいております。世界中でいろいろな有名な方がボーイスカウトを経験していきまして、それぞれの世界へ飛び立っています。現在、世界174の国と地域で約5,700万人おります。

■スカウト運動の成長

ロバート・ベーデン=パウエル、イギリスの軍人ですが、1857年生まれ、ボーイスカウトを1907年に始めました。そこから117年経っております。日本では、大正11年に後藤新平がボーイスカウトを作りまして、その翌年に関東大震災が発生し、さっそく奉仕活動をボーイスカウトが始めたことがきっかけとなり、一気に日本のボーイスカウトが増えました。2022年に日本連盟は100周年を迎えました。東京は去年75周年になりました。当初男の子だけでしたが、1995年くらいから女の子を迎え入れることになり、現在ではどちらかというと女性の方が、班長やリーダーシップをとって、男の子を引っ張っていっています。

■ボーイスカウト運動の狙い

- ① 青少年の自発活動
- ② 自らの健康を築く
- ③ 社会に奉仕できる能力と人生に役立つ技能を体得
- ④ 誠実、勇気、自信及び国際愛と人道主義を把握し(人格)実践できるように教育する

上記四本柱で、世界中のテーマです。「より良き社会人の育成」これがさっき言った、「Creating a Better World (より良き世界をつくる)」と一緒に掲げられております。

■ボーイスカウトって

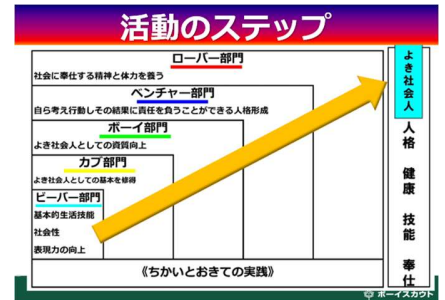
ボーイスカウト、名前は聞いたことがあり92%ぐらいの人は知っていますが、何をやっているのか知っている人は18%ぐらいしかおらず、謎の団体と言われております。ボーイスカウトのイメージを聞くと、キャンプやハイキング、街頭募金などと言われます。ボーイスカウトは、青少年の育成としての教育活動です。特に最近では文科省が提唱しております「否認知能力」いわゆる学校の教科の評価、あるいはスポーツの評価とは違う、少年時代に社会性や、協調性、リーダーシップ、物事に対する考え方とか取り組む姿勢、行動等、日常生活や社会活動において、重要な影響を及ぼす能力、これを非認知能力と言います。これを奉仕活動や野外活動で行うことによって、学びながら、学校では習わない、家庭では習えないことを、子供たちに教えています。

■スカウト運動を支える組織

マレーシアのクアラルンプールに、世界の本部があり、174か国、約5,700万人が活動しています。ジャンボリーというキャンプ大会があり、次回は2027年にポーランドで5万人集まって世界中の子供たちとキャンプをする大会があります。日本から、もちろん東京からも1000人くらいが参加する予定です。

■活動のステップ

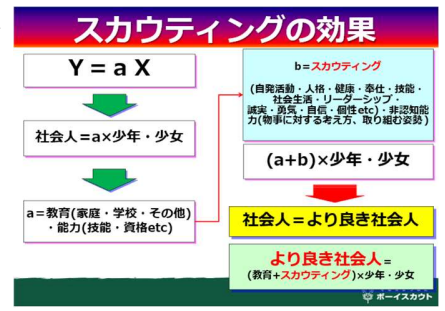
良き社会人を目指して、子供のときから部門にあわせていろいろなプログラムを展開してやっております。特にベンチャースカウト、ローバースカウトになりますと、自主性が強調されてきますので、奉仕活動が大変多くなってまいります。この度の能登の地震も、ボランティアの受入ができるようになり、千代田区では大学が、明治、法政、中央、専修、日大とあり、特に明治大学は教育の一貫として必ず奉仕活動をしないではいけないということで、向かっております。



私の持論ですが、Y=社会人、X=少年少女とした場合、a=教育、b=ボーイスカウトの活動、a+bを足すことで子供たちが社会人から、より良き社会人になるというイメージを持っております。スカウティングを足した少年少女の段階的な教育によって、世界平和を目指した、より良き社会人を作っていくという形です。

■スカウティングの効果

Y=社会人、X=少年少女とした場合、a=教育、b=ボーイスカウトの活動、a+bを足すことで子供たちが社会人から、より良き社会人になるというイメージを持っております。スカウティングを足した少年少女の段階的な教育によって、世界平和を目指した、より良き社会人を作っていくという形です。



最近、東京でも加盟員1万人くらいになりました。私が子供の頃は3、4万人いたのですが、現在日本でも8万人程度となりました。文科省のお墨付きもあります。一般児童を対象として、ワクワク自然体験、ボーイスカウトの活動を体験してもらって、面白そうだなと思ったらどんどん入ってもらおうという、募集事業も展開しております。今の小学生は、塾や習い事、中学受験などで忙しく、一旦入っても辞めていってしまう、中学生になっても部活とか習い事で忙しく、戻ってこれなくてどんどん減っていく現象になっております。ここ数年、特にコロナの時期に3年間活動できなかったこともあり、減ってしまった原因でもあります。いずれにしても、どんどん増やしていかないといけないということで、素晴らしい教育や運動を絶やさないように私たちも頑張っております。私自身も小学生の時から始めて、50年以上、60年近くやらせていただいております。恩返しさせていただければと思います。

最近、東京でも加盟員1万人くらいになりました。私が子供の頃は3、4万人いたのですが、現在日本でも8万人程度となりました。文科省のお墨付きもあります。一般児童を対象として、ワクワク自然体験、ボーイスカウトの活動を体験してもらって、面白そうだなと思ったらどんどん入ってもらおうという、募集事業も展開しております。今の小学生は、塾や習い事、中学受験などで忙しく、一旦入っても辞めていってしまう、中学生になっても部活とか習い事で忙しく、戻ってこれなくてどんどん減っていく現象になっております。ここ数年、特にコロナの時期に3年間活動できなかったこともあり、減ってしまった原因でもあります。いずれにしても、どんどん増やしていかないといけないということで、素晴らしい教育や運動を絶やさないように私たちも頑張っております。私自身も小学生の時から始めて、50年以上、60年近くやらせていただいております。恩返しさせていただければと思います。

■Q & A

Q. 能登の地震での活動ですが、具体的には？

A. 瓦礫の撤去が中心になります。大学生なので、高い所に上る等危険なことは行いませんが、瓦礫を撤去する作業、あと清掃作業、そういった奉仕を交代しながら1週間単位くらいでやっております。